

43. だいこん

・殺菌剤

FRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
M1	(銅水和剤) Zボルドー	散布	-	-	野菜類(キャベツを除く)
	ドイツボルドーA	散布	-	-	野菜類
31	スターナ水和剤	散布	収穫14日前まで	5回以内	
M5	ダコニール1000	散布	収穫45日前まで	3回以内	
-	バイオキパー水和剤	散布	発病前～発病初期	-	野菜類(かぼちや、ズッキーニを除く)
M1*	ヨネボン水和剤	散布	収穫7日前まで	4回以内	

・殺菌剤(参考農薬)

FRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
NC+M1	ジーファイン水和剤	散布	収穫前日まで	-	野菜類(なすを除く)
M1	(銅水和剤) コサイド3000	散布	-	-	野菜類

・殺虫剤

IRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
3	アディオオン乳剤	散布	収穫30日前まで	4回以内	
4	アドマイヤー1粒剤	播溝土壌混和	は種時	1回	
1	カルホス粉剤	土壌表面散布土壌混和 処理	は種時	1回	
13	コテツフロアブル	散布	収穫14日前まで	2回以内	
5	スピノエース顆粒水和剤	散布	収穫7日前まで	3回以内	
1	ダイアジノン粒剤3	土壌混和	は種時	1回	
11	トアローフロアブルCT	散布	発生初期(但し、収穫 前日まで)	-	野菜類
3	フォース粒剤	播溝土壌混和	は種時	1回	
4	バストガード水溶剤	散布	収穫7日前まで	3回以内	
3	マブリック水和剤20	散布	収穫14日前まで	2回以内	

・殺虫剤(参考農薬)

IRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
6+15	アフームエクセラ顆粒水和剤	散布	収穫14日前まで	3回以内	
14	バダンSG水溶剤	散布	収穫7日前まで	3回以内	
UN	ブレオフロアブル	散布	収穫14日前まで	2回以内	

注1) 使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決めているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。

注2) 薬剤抵抗性の出現を防ぐため、「FRACコード」や「IRACコード」を参考にしながら他系統剤とのローテーション使用を心掛ける(「薬剤抵抗性管理」参照)。

注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

病害虫名 (F : 菌類病、B : 細菌病、V : ウイルス病、O : その他の病原体)

病害虫名	防除時期	防 除 方 法	注 意 事 項
萎 黄 病 (F)	は 種 前	1. 抵抗性品種を採用する。 2. 土壌消毒する。土壌消毒の項を参照し、登録薬剤を用いる。 3. 発病地では連作をしない。	1. 抵抗性品種を用いれば、概ね土壌消毒は必要ない。
白 さ び 病 (F)	生 育 期 間	1. ダコニール1000の1,000倍液を散布する。 [参考農薬] 1. ジーファイン水和剤1,000倍液を散布する。	1. ジーファインは高温下、連続散布で薬害が発生する恐れがある。
軟 腐 病 (B)	生 育 期 間	1. ヨネポン水和剤、Zボルドーの500倍液、ドイツボルドーAの500~1,000倍液、スターナ水和剤1,000倍液のいずれかを散布する。 2. バイオキパー水和剤1,000倍液を散布する。 [参考農薬] 1. コサイド3000の2,000倍液を散布する。	1. 早まきしたり、高温・多湿が続くと多発する。 2. バイオキパーは生物農薬である(「56. 野菜類の総括注意」参照)。
ネグサレ センチュウ	は 種 前	1. 土壌線虫の項を参照する。	
アブラムシ類 (ウイルス 媒介)	は 種 時	1. シルバーストライプフィルムをマルチする。 2. アドマイヤー1粒剤を10a当り6kg播溝に施用し、土壌混和する。	1. 春は晩まき、秋は早まきで被害が大きい。 2. アディオン、マブリックは蚕毒及び魚毒に特に注意する(特別指導事項参照)。 3. はくさいのウイルス病が伝染源になることがある。
	生 育 前 半	1. ベストガード水溶剤1,000倍液、アディオン乳剤3,000倍液、マブリック水和剤20の4,000倍液のいずれかを散布する。	
キスジノミ ハムシ	は 種 時	1. フォース粒剤を10a当り4kg播溝に施用し、土壌混和する。	1. フォースは魚毒に特に注意する(特別指導事項参照)。
コ ナ ガ	生 育 期 間	1. トアローフロアブルCTの1,000倍液、コテツフロアブル2,000倍液、スピノエース顆粒水和剤5,000倍液のいずれかを散布する。 [参考農薬] 1. アファームエクセラ顆粒水和剤1,500倍液を散布する。	1. アファームエクセラは蚕毒及び魚毒に、スピノエースは蚕毒に、コテツは魚毒に特に注意する(特別指導事項参照)。 2. トアローCT、コテツは蚕毒が強いので注意する。 3. コテツは、7葉期以前に散布すると白化を生ずる場合があるので、8葉期以降に散布する。
タ ネ バ エ	は 種 時	1. ダイアジノン粒剤3を10a当り5~8kg散布後、土壌混和する。	1. ダイアジノンは魚毒に特に注意する(特別指導事項参照)。
ネキリムシ類 (カブラヤガ)	は 種 時	1. カルホス粉剤を10a当り6kg土壌表面に散布し、土壌混和处理する。	
カブラハバチ	生 育 期 間	[参考農薬] 1. プレオフロアブル1,000倍液、又はパダンSG水溶剤の1,500倍液を散布する。	1. パダンは蚕毒に特に注意する。(特別指導事項参照) 2. パダンは水産動植物(魚類、甲殻類、ドジョウ、藻類)に注意する。

【別表】 殺虫剤の使用方法及び効果（表中の登録内容は令和4年11月30日現在）

系 統	I R A C コード 1)	薬 剤 名	希・ 釈 処 倍 理 数 量	使 用 時 期 (収 穫 前 日 数) (以 内)	本 剤 の 使 用 回 数 (以 内)	薬剤の使用と効果						
						ア オ ム シ	コ ナ ガ	ア ブ ラ ム シ 類	カ ブ ラ ハ バ チ	キ ス ジ ノ ミ ハ ム シ	タ ネ バ エ	ネ キ リ ム シ 類 (カ ブ ラ ヤ ガ)
有 機 リ ン 剤	1	カルホス粉剤	6kg/10a	は種時	1						○	○*
		ダイアジノン粒剤 3	5~8kg/10a		1						○*	
合 成 ピ レ ス ロ イ ド 剤	3	アディオソ乳剤	3,000倍	30日	4			○*				
		フォース粒剤	4kg/10a	は種時	1				○*	○ 2)	○ 2)	
		マブリック水和剤 20	4,000倍	14日	2			○*				
ネ オ ノ ニ コ チ 剤	4	アドマイヤー 1 粒剤	6kg/10a	は種時	1			○*				
		ベストガード水溶剤	1,000倍	7日	3			○*				
B T 剤	11	トアローフロアブルCT	1,000倍	前日	—	○ 3)	○* 3)					
ネ ラ キ イ シ ン 系	14	パダンSG水溶剤	1,500倍	7日	3	○	○	○	○	○		
そ の 他	5	スピノエース顆粒水和剤	5,000倍	7日	3	○	○*			○		
	6+ 15	アフームエクセラ 顆粒水和剤	1,500倍	14日	3	○	○					
	13	コテツフロアブル	2,000倍	14日	2	○	○*					
	UN	プレオフロアブル	1,000倍	14日	2	○	○		○			

【効果凡例】

- *：効果ある（対象害虫に普及済み）
- ：効果ある（対象害虫に未普及）
- △：効果劣る

- 1) 薬剤抵抗性の出現を防ぐため、「IRAC コード」を参考にしながら他コードの薬剤とのローテーション使用を心掛ける（「薬剤抵抗性管理」参照）。
- 2) 播溝土壌混和
- 3) 野菜類で登録

【注】

1. 合成ピレスロイド剤は蚕毒及び魚毒に、スピノエース、パダンは蚕毒に、ダイアジノン、コテツは魚毒に特に注意する（特別指導事項参照）。
2. トアロー、コテツは蚕毒に注意する。
3. パダンは水産動植物（魚類、甲殻類、ドジョウ、藻類）に注意する。